



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Summer 2000(Vol.1, No.3)

第7回日欧対話開催さる 「EUの選択と日本」をめぐる

当フォーラムは、国際交流基金の助成を得て、さる5月18—19日東京において、英王立国際問題研究所(The Royal Institute of International Affairs)との共催により、第7回目の日欧対話「EUの選択と日本」を開催した。

18日夜に大河原代表世話人が歓迎夕食会を開催したあと、翌19日には午前、午後と終日活発な議論が日欧の参加者の間で交わされた。

EUの共通防衛・外交政策

19日午前の本会議Iでは伊藤憲一当フォーラム世話人事務局長が議長となって「EUの共通防衛・外交政策」をテーマに、まず基調報告者のティモシー・ガーデン元王立国際問題研究所長(英国)から「冷戦後の欧州の安全保障への取り組みは、依然として冷戦時代の戦略体制のために構築された兵力が大部分を占めており、新しい地域紛争のような脅威に対する行動能力がまだ十分に構築されていない。欧州は米国の半分の国防予算で米国の2倍の兵力を維持しているが、それは新しい戦略目的に対応できない非効率な戦力構成の体制となっている。欧州統合を成功させるためには、通貨統合以上のさらなる統合を進める必要があり、そのためには高度な軍事能力により欧州



本会議Iで活発に議論を交わす出席者たち

の共通防衛・外交政策を裏づけることが必要である」との報告がなされた。

この基調報告に対しては、阪中友久前平和・安全保障研究所理事長、マックス・ティッテン国際政治・安全保障研究所主任研究員(ドイツ)、山口達男元駐スペイン大使の3人のコメンテーターだけでなく、さらに会場の参加者45名も全員が参加して「自由討論」の形で議論を深め、「グローバル化の進んでいる現在、1つの地域だけで完璧な安全保障を担保することは不可能である。日本と欧州は平和維持、予防外交等の分野でもいっそうの協力の可能性を模索し、日欧の協力関係をさらに強化していくべきである」とのコンセンサスが得られた。

EUの貿易政策とWTO

午後の本会議IIではジュリー・スミス王立国際問題研究所欧州研究部長(英国)が議長となって「EUの貿易政策とWTO」をテーマに、基調報告者のジョン・フォーサイス・ケンブリッジ大学講師(英国)からまず「10年前にGATTは死んだといわれたが、実際には世界貿易はこの10年間で飛躍的に拡大し、GATTはWTOに生まれ変わった。それだけに、昨年末のWTOシアトル閣僚会議が、途上国やNGOの激しい抵抗を受けて立ち往生したのは残念であった。欧州委員会はこの事態に驚きを表明したが、私はむしろそのことにあきれている。欧州委員会はWTOにおける途上国とNGOの参加を拡大したいと言ってきたはずであり、実際には欧州委員会がかねらの過去2—3年来の主張に耳を傾けていなかったことを露呈したからである。途



本会議IIで司会するスミス英王立国際問題研究所欧州研究部長(右より3人目)

上国やNGOのパワーが高まっていることを認め、かれらの見解をもっと考慮していく必要がある」との報告がなされた。

この基調報告に対しては、三好正也経済団体連合会参与、ジャン・ロード・クリンゲンドール国際関係研究所研究部長(オランダ)、五味紀男松下電器産業国際関係担当副理事の3人のコメンテーターおよび会場の参加者全員から活発な質問や賛否両論のコメントが出され、「世界貿易システムの健全な発展のためには、アメリカのユニラテラリズムを牽制したり、途上国のあり方に配慮したりするうえで、日本と欧州が協力して果たすべき役割は大きい」「NGOについては、よいNGOと悪いNGOをはっきりと区別して対処してゆくことが必要だ」などの議論が展開された。

また、昼食会ではユールヨーゲンセン駐日EU大使から「日本とEU：回顧と将来への期待」との講演がなされ、一同に深い感銘をあたえた。



講演するユールヨーゲンセン大使

田弘茂新台湾外交部長は当フォーラムの仲間

当フォーラムがその創立以来18年間に日本に招いた各国各界のリーダーの数は、延べ400人を超える。その人脈は当フォーラムにとってだけでなく、日本全体にとっても大きな財産になっていると自負しているが、これら400人のなかからは、各国で、そして世界で、さまざまな形で活躍する人材が輩出している。

今回の台湾における総統選挙とそれに伴う政権交代の結果として新しく外交部長に就任した田弘茂 (Tien Hung-



97年「日米対話」に参加した田氏 (右端) mao) 前台湾国家政策研究中心主任もその一人である。

田弘茂外交部長は、国家政策研究中心主任として1994年、95年の当フォーラム「諮問総務会」、96年の「東京円卓会議」、97年の「日米対話」等に参加してくれた当フォーラム国際会議のいわば常連の一人であるが、今回の外交部長就任にあたっては、伊藤憲一当フォーラム世話人事務局長からの祝電に「今後とも支持と助言をお願いする」との返電を寄せただけでなく、その後も「創造力と忍耐をもって困難な局面を克服したいと思っている。貴方との友情が役に立つことを願っている。日台関係改善のために力を貸してほしい」と、直筆の手紙を送ってきている。



田外交部長から伊藤事務局長あての手紙

ホームページ・アドレスが変わりました

URL : <http://www.gfj.gr.jp/>

本会報前号でご報告したように当フォーラムは、さる1月21日にそのホームページ (HP) を開設したが、このHPは独立したHPではなく、日本国際フォーラムのHPに附属する形で設置されていた (<http://www.jfir.or.jp/gf/>)。

このたび6月1日付けで、当フォーラムのHPは日本国際フォーラムのHPから独立し、アドレス(URL)も <http://www.gfj.gr.jp/> となったので、この機会に改めてアクセスしてみることをおすすめしたい。

■経済人メンバー代表者交替 (3-5月分)

[新経済人メンバー]

瀬谷 博道 (旭硝子会長)

事務局便り

当フォーラムの本年度最初の国際対話は、さる5月18-19日にヨーロッパとの間で行なわれました (1頁) が、共催者英王立国際問題研究所の準備作業に手違いがあり、一時は延期もやむを得ないかという緊迫した場面もありました。どうやら無事乗り切ることができ、いまは本当にホッとしています。

追悼

小淵恵三前首相が5月14日に逝去されました。故小淵前首相は、当フォーラムの設立当初からのもっとも熱心な世話人の一人であり、これまで18年間にわたり何かと当フォーラムの発展を支えてくださいました。

故小淵世話人のご冥福を心よりお祈り申し上げたいと思います。

都甲岳洋前駐ロシア大使を招き 国際政経懇話会開催

当フォーラムが日本国際フォーラム、日本予防外交センターと共催する第122回国際政経懇話会は、3月24日、都甲岳洋前駐ロシア大使を講師に招き、「ロシアの現状と今後の日露関係」と題する講話を聴いた。都甲氏は「ロシアには4回在勤したが、最後となった今回の在勤時にはロシアが本当に変わったと思った」と自らの体験を踏まえて、ロシアの変化について語った。



フォーラム活動日誌 (3-5月)

- 3月24日第122回国際政経懇話会 (都甲岳洋前駐ロシア大使他21名)
- 4月21日第123回国際政経懇話会 (大島賢三総理府国際平和協力本部事務局長他24名)
- 5月13日日欧対話「EUの選択と日本」開暮夕食会 (大河原良雄代表世話人他17名)
- 5月14日日欧対話「EUの選択と日本」(ジュリー・スミス英王立国際問題研究所欧州研究部長他49名)
- 5月26日第124回国際政経懇話会 (飯村豊外務省経済協力局長他24名)



グローバル・フォーラム会報
2000年夏季号
(第1巻 第3号 通巻第3号)

発行日 2000年7月1日
発行人 伊藤 憲一
編集人 大原 淳子

発行所 グローバル・フォーラム
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2190 [E-mail] jfir@mars.dti.ne.jp
[Fax] 03-3589-5120 [URL] <http://www.gfj.gr.jp/>